

第一回訪パ報告書

日程	2022年05月24日～29日
目的	新大統領への表敬訪問 2024年マイクロプラスチック拡散分布調査航海説明 2024年マリンウィーク開催の承諾 その他諸々
人員	新田
協力	菊池 正雄様(Belau Tour in Palau) シード越子様(Interpreter)
主な訪問先	①大統領府 ②在パ日本大使館 ③在パJica事務所 ④Sam's Tour/Joe Chilton ⑤Palau Community College ⑥Palau Custom ⑦バクライ教育省オリンピック担当官

1. 報告内容

①大統領府(訪問日 26日 14:30～15:30)

面会者 : SURANFGEL S.WHIPPS, JR 大統領

MS.LANDISANGEL.KOTARO チーフスタッフ

添付 : シード越子氏訳文参照

a. パラオの港に関して

私は藤木さんに是非パラオの港に関して藤木さんからアドバイスをほしいと常々考えている、アメリカは直ぐに軍港のようにしたいと言うが私はそれは反対で、商業港として発展をさせたい

c.日本との直行便に関して

アメリカに行った際、又日本の外務大臣が来た際、みな口をそろえ中国を批判しアメリカ・日本の観光客をどんどん受け入れるように言った。そこで大統領としてはせつかく日本の会社がPalauの空港の管理を行うことになったのに、何故日本からの飛行機が来ないのだ、何故羽田からの飛行機が飛ばないのだと強く要請した

d.2024 年に関して

2024 年はパラオがアメリカより独立し、又日本との国交回復 30 周年の記念の年である。そのときに再度日本とパラオの交友と親善を目的としたイベントがあること大変に嬉しく思う

e.マリンウィークに関して

2024 年 3 月～4 月のマリンウィークに関しての企画、大変良いと思う。マイクロプラスチックに関するテーマは重要である。海で繋がる国々の協力や相互理解も大切である。パラオの政府としても協力できる。どの様なプランであるか早期優に教えてほしい。プランを見たうえで関係の役所に伝える

e.Palau→沖縄国際レースに関して

Palau を出発とするヨットレースには興味がある、しかしどうやって開催して良いのかわからない、日本側からの教授はあるのか

f.ヨット連盟設立について

(我々発言)OP ディンギーの寄贈や普及に関しては継続的に実施する、しかしその受け皿がほしい。そして 2024 年パリ、2028 年ロスのオリンピックには間に合わないにしても 2032 年ブリスベンのオリンピックにはパラオからセーリングでのオリンピック選手を出したいと思う。

(大統領)2032 年にブリスベンのオリンピックがあるのであれば、是非教育省のオリンピック担当(ハクライ氏)に伝えたいがヨット連盟の設立に関してはどの様にすれば良いのか教えてほしい

g. ノルウェーの帆船について

ところで、ノルウェーの帆船の帆船は日本とパラオとどっちに入るのか、知っているか。

(我々発言)両方の国に入る、パラオに入りその後日本に入国の予定である。日本では横浜港に入港し歓迎式典を予定している。

(大統領)日程の連絡が無く、全くわからない予定がわかるのであれば教えてほしい

(当方)藤木さん・岩堀さんからの情報をメールにて返信済み

h. OP デインギーの活動に関して

(大統領)よく知っている、大統領の息子も当初練習した、今開催されていないのが残念だ。OPの普及に関して現在のミューズ飛行場跡地だけで行っているのではPalau全土には広がりにくい、よってキャラバンのように色々な場所に移動して練習をするなどの方法も考えられるのではないか。

(我々発言)現在寄贈した 20 艇のOPはミューズ飛行時跡地のコンテナに保管されている、コロナの影響で練習が出来ていないことは残念である。そこではやく練習を再開したいと考えている。2023 年 4 月には日本からの子供をパラオで親善レースをすることを考えている、2023 年 7 月にはパラオの子供達を日本に招待し親善レースを開催することを考えている

i. コロナ対策

現在入国に際して 3 回のワクチン接種と入国 72 時間前の陰性証明を入国の条件とし、入国時にリストバンドを着け、入国者であることを識別している。このリストバンドは入国 4 日目をもって、PCR 検査を受検し「陰性」なら外せる。しかし現在では既に安定をしているため、6 月 1 日をもってリストバンドは廃止する方向である。

j. Foreign Vessel Tax について

この法律は議会で決定している、大統領として 2029 年レース参加艇に対して課税免除を指示したが、議会で決定されていることで免税にはならなかった。

しかし 2024 年ではマリンウィーク開催開催で各国からのヨットが訪パするのであれば当然「減免」「免税」の措置を講じる

k.パラオにおけるアメリカの統治終了について

2019 年はアメリカの統治終了 25 周年であった、2024 年は 30 周年である

(我々の今後の動き)

2019 年と同様 2024 年は重要な年である、2024 日本パラオマイクロプラスチック拡散分布調査航海を独立 30 周年の記念事業としての申請をしたい。

次回大統領選挙の年でもあるため大統領への応援も兼ねたい。

OPの活動に関しても大統領として興味があると思われる。

前大統領とは異なり決断と動きが速いと伺えるため、実行委員会としても有言実行の姿勢が必要。

②在パ日本大使館(訪問日 27 日 10:00~11:00)

面会者 : 杉村 元 一等書記官
大賀 香菜 派遣員

a.前回からの記録について

唐沢大使が現在一時帰国中であるが、大使からと前任者からこの企画に関して色々聞いている、又 2024 年に再度開催に関しても事前に聞いている

b.大使館として出来ること

前回の開催時も同様であるがヨットの入国・出国に関しては検疫の問題が大きいと聞いている。大使館としてはそのことは今後もフォローする予定である

c.マリンウィークについて

(我々発言)2024 年に今回は「2024 日本パラオマイクロプラスチック拡散分布調査航海」と題して横浜からのヨットレースを開催する予定である。その際マイクロ

プラスチック採取活動も実施する予定である。その採取したマイクロプラスチックを USB の拡大鏡などでたまっているプラスチック数をセーラーやパラオの子供達が数えた結果をパネルディスカッション形式で発表をしたいと考えている。狙いは子供目線での発想でマイクロプラスチック問題を考えて貰うためである。尚その際にはJAMSTECのサイエンティストがアドバイスと導きをしながら進行することを考えている。尚その他にも「海上」ではマリンアクティビティーの紹介を、「陸上」では日本文化の紹介を考えている。

(杉村書記官)話は大使に伝える、民間の企画として素晴らしい、経済担当の人間としてこの様な企画はどんどん取り入れてほしい。今後の課題となるものがあれば是非教えてほしい。Japan Fairに参加をしてくれた実績は知っている、2022年は残念ながらWEBのFairであったが、2023年は是非会場で対面形式で開催を考えている。2024年にマリンウィークを開催するのであれば、プロモーションの一環としてJapan Fairに参加することを検討してほしい

d. 外務大臣の名誉副会長就任に関して

(我々発言)2024日本パラオマイクロプラスチック拡散分布調査航海において大会名誉副会長に外務大臣をお願いしたいがどの様なルートでお願いをしたら良いかアドバイスがほしい。併せて2024日本パラオマイクロプラスチック拡散分布調査航海の実行委員会において後援に外務省と在パ日本大使館にご就任を頂きたい、この件に関してもどの様にアプローチをしたら良いかのアドバイスがほしい。

(杉村書記官)大会名誉会長がパラオ大統領であるなら、外務大臣が名誉副会長での良いと思う、しかしどの様にアプローチしたら良いかは大洋州課と相談をさせてほしい。今回の企画の大きさやマリンウィークが企画されていることから、在パ日本大使館経由で本庁に問い合わせをした方が良い。後援に関して大使館レベルではかなり簡単な書式で構わない、外務省の後援となるとこのことも併せて確認し連絡する。

(我々の今後の動き)

2024 日本パラオマイクロプラスチック拡散分布調査航海を始めマリンウィーク開催にむけて大使館・外務省とは密な連絡を継続する。杉村書記官はかなり緻密な方であるため、頻繁な連絡が望ましい。

③在パJica事務所(訪問日27日13:00~13:30)

面会者 : 矢野様

a.本部からの連絡

珍しいことであるが、パラオでのセーリング活動は本部からも色々な情報が流れてきている、普通はそのようなことは無いがJicaの元理事の荒川さんの影響である。JicaとしてはJicaが主催をして派遣員を募っているものではない。Jicaはあくまでもサポート役と考えてほしい。よって今後セーリングがJica派遣対象となった場合、Jicaが派遣指導員の「育成」をするものではない。日本においてはJSAFが存在しているため、実際の派遣に関してはJSAFで資格を有している人物の選別を実施して貰うことになる。

今後に関しても連絡を取り合いながらということになるが、現時点でJica事業としてセーリング指導員の派遣に結びつくことはないと考えて貰いたい。

④Sam's Tour / Joe Chilton(面談日 25日・28日)

a. OPの保管状況について

OPは40フィートコンテナに保管されているのが18艇、2艇はトラディショナルカヌーのチームに貸している。多少の痛みはあるが使用出来ない状態では無い。船外機は固定ネジの部分が壊れている

b. コンテナについて

天井部分と右舷側壁面に「穴」が開いてしまっている、修理が必要である。

c. 練習について

コロナで練習が全く出来ていない、練習が再開できるようになってもコーチがいないことには変わりないため子供達の遊びの道具でしかない

d. 練習場所の確保について

現在のミュージズはコロール政府の土地を無償でかりている、別に使い勝手が悪いわけでは無い。しかしゲレンデとしては「風」「潮汐」に影響で練習できないことが多い。Sam's Tour のマラカイ湾(BelauTour 全面海域)は風や潮汐の影響は受けにくい。よってコンテナの場所の移動(Sam's Tour)と練習場所の変更を考えてほしい。

e. ヨット連盟の発足

パラオでヨットを定着させる上で、クラブが必要であると考えている。水泳・野球・アーチェリー・柔道、皆クラブ(連盟)が存在している。クラブがあると支援を受けたり、コーチの派遣を受けられたり、学校の課外授業の対象になったりすることも出来る。よって連盟を作ることを考えほしい。連盟ではパラオ国籍の人間が3名いれば可能である。出来ればオリンピックを輩出したい。

(我々発言)ヨットクラブは日本で設立した、それに併せ是非パラオでもヨットクラブを立ち上げたい。出来れば2022年中に立ち上げを終えてほしい。そしてオセアニア地区のセーリング連盟に加盟してほしい。何故ならパラオでOPの親善レースをする上で、本来であれば国際セーリング連盟に加入していなければならない、そのためにはパラオでクラブをつくりオセアニア地区で加盟することで世界から認められることになる。そうなればセーリング競技規則を使用しレースを主催・開催することができる。

f. 子供達の募集

練習場所をマラカルに変更し練習を再開するに対してコーチはSAMが心当たりを探し、ヨットクラブを立ち上げて練習を再開・継続する。今後はヨットクラブで会費を徴収することとしたい。

g. 艇の保守管理

今後 OP ディンギーの保守管理は SAM が行う

⑤Palau Community College(訪問日 27 日 14:30~15:00)

面会者 :Patrick 博士

(我々発言)OPの寄贈活動を2019年より実施している、しかし指導員がおらず最近行き詰まっている、又練習場所等でアドバイスを頂くこと可能か。又2024年にはマリンウィーク開催を開催することを考えている、その際にマリンアクティビティとしてカヌーは協力していただけるか。

(パトリック氏発言)PCCではSTAR NAVIGATIONの活動をずっと行っている、又課外授業でカヌーの行っている。OPの活動のことは新聞などで知っていた。いままで一度の挨拶が無かったためこちらから出向くものでも無いと考えていた。しかし企画は良いことだと思っている、先ず練習だがSTAR NAVIGATIONのインストラクターは当然セーリングは出来るので教えることは出来る、但しOPは小さすぎる。カヌーでなら何の問題も無い。マリンウィークに関しては了解したが、日程に関しては今後知らせてほしい。又もっと事前に連絡をくれればOPもカレッジのサマープログラムとして行うことも可能である

⑥Palau Custom Immigration

(事実の報告)

Custom に対して Foreign Vessel Tax はアルタイル・パラオミニー・トレッキーは1070ドル支払った

Immigration に対して入行税として各艇字容器 Custom に対しての税金支払時に決定が成されたため支払った、ちなみにトレッキーは900ドル支払った

(在パの他のヨット)

パラオには17隻程度の外国籍のヨットが現在も係留されている、これらヨットはクルージングの目的を持ってパラオを訪問している、これらヨットも上記2つの税金の支払い対象となっている。これらのヨットに関しては30日 Sam's Tour が代理店となって税関に交渉することとなっている。結果は後日確認する。

この法律の創設主旨は、中程度のヨットは薬物を始め色々は不法物品などを運搬する道具として使用されがちである、よってそれらを排除済め目的とためである。

⑦バクライ・教育省オリンピック担当との面談(28日 11:30～13:30)

(我々発言)

パラオにおいてクラブを創りたい、そしてオセアニア地区において連盟に加入すると共に、最終的にはパラオの子供達から 2032 年のブリスベンのオリンピックのセーリングオリンピックを出したい。パラオでのヨットクラブの創設、オセアニア地域でのパラオセーリング連盟の届け出、パラオオリンピック委員会へのセーリング登録これらパラオでセーリングの大会を主催・開催するための要件を満たすこととオリンピックを輩出することにアドバイスをほしい。2024 年にはマリンウィーク開催を開催する、そのときにOPの活動を紹介したいし、マイクロプラスチック問題に関してのシンポジウムも子供中心で考えている。

(バクライ氏)

パラオでの組織を立ち上げることは難しくない、又オセアニア地区においてパラオセーリング連盟を登録させることも出来る、パラオでの組織が出来上げれば直ぐに申請書を作製しISAF登録手続きは実施する。オリンピック委員会に対しても問題ないと考える、バクライ氏自身は 2032 年ブリスベンの大会はパラオの代表として東京大会と同様に訪豪することが決まっている、よってパラオオリンピックの育成は期待したい。問題は誰が育成できるかである。セサリオという STAR NAVIGATION で Traditional Canoe で航海をしている人物がいる、彼が適任ではないか、彼はハワイとパラオをこのカヌーで航海している。パラオにはホクレアという Tradition Canoe が 2 艇ある

(我々発言)

セサリオさんに是非会いたい、彼は本当に指導が可能であれば助かる
2024 年はアメリカ統治終了 30 周年とのことだが、記念事業として 2024 日本パラオマイクロプラスチック拡散分布調査航海を考える方向としているが Tradition Canoe が調査航海に参加することは可能か

(バクライ氏)

セサリオさんに連絡を入れておく、2024 年のマリンウィーク開催の日程を知らせてほしい

併せて 2024 日本パラオマイクロプラスチック拡散分布調査航海への参加は出来るはずであるが、横浜パラオは難しいため、パラオ沖縄を考えたい

(我々の今後の動き)

バクライ氏は Joe Chilton の妻である、更にパラオにおけるオリンピック関係の「顔」である。今後OPの活動をクラブ化させて行く上で同氏のアドバイスは必要である。併せてセサリオ氏、ホクレア等の STAR NAVIGATION における Tradition Canoe の活動に OP の活動をどの程度お願いをするのか慎重に考える必要がある。

一般社団法人日本パラオ青少年セーリングクラブ

新田 肇

E-mail : info@jpysc.org